

戦争と平和についてのおはなし会 ～村木小学校～

平成29年8月1日(火)に、村木小学校6年生を対象として「戦争と平和のおはなし会」を開催しました。

まず最初に、原子爆弾の悲惨な被害を伝えるDVD「被爆の爪跡」を見た後、図書館の朗読ボランティア「おはなしを楽しむ会」の皆さんが朗読される被爆体験記や原爆詩、絵本を静かに聞きました。



原爆や戦争による被害が
どれほど悲しいもの
だったのかを知ることが
できました

日頃当たり前に感じて
いることが幸せであり、
平和であるということ
絵本から学びました



実際に戦争を体験された方のお話も聞きました。

全ての持ち物には名前や住所、血液型までかかかなければならなかったこと、お風呂には毎日入れなかったこと、家の光が外に漏れないように生活していたこと、家族に心配をかけないようにお腹が減ったと言えなかったこと。平和な生活が当たり前になっている現代とはかけ離れた、辛くて苦しいお話にじっくりと耳を傾けました。



**浴衣を崩して作った
という当時の服を
再現してもらいました**

次に、自分たちの住む富山大空襲の被害や戦争当時の子どもたちの生活について学び、実際に被害にあわれた方の体験記を聞きました。

**自分たちの住む富山県
でも大変な被害を受けた
空襲があったことを知り
戦争を身近なことと
捉えることができました**





最後に、参加者全員で原爆詩を朗読してから、
原爆や戦争で亡くなられた方のご冥福と世界の平和を祈って黙とうをささげました。

(平成 29 年 8 月 2 日 朝日新聞朝刊)

子らに戦争体験 もんぺ姿で語る
魚津 禎子さん紹介も

魚津市内で子どもたちに戦争体験を読み聞かせる「戦争と平和のおはなし会」が1日、始まった。同

白は市立村木小(同市村木町)で行われ、同市の読み聞かせボランティア団体「おはなしを楽しむ会」の会員が原爆詩「あの時」や絵本「へいわってどんなこと？」などを朗読した。

東京で子ども時代を送った浜辺百子さん(88)はもんぺ姿で自身の戦争体験を語った。写真。不自由だった戦時中の暮らしや東京大空襲の話も、参加した6年生16人は身じろぎもせずに聴き入った。「おはなし会」は、2日以降、市内のほかの3小学校でも開かれる。

同市立図書館で2日から「サタコと折り鶴ポスター展」を開く。広島市で被爆して12歳で亡くなり、同市の平和記念公園に立つ「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんを紹介するパネル二十数点を展示する。(高津守)